

建設地	： 熊本県葦北郡芦北町	竣工	： 平成 31 年 1 月	敷地面積	： 691.38 m ²
地域区分	： 7 地域	用途	： 専用住宅	延床面積	： 119.56 m ²
設計者	： すまい塾 古川設計室（有）	構造・階数	： 木造軸組・地上 1 階	建築面積	： 124.32 m ²

■提案の概要

- 熊本県の中山間地の畑の多い傾斜地に建つ住宅で、林業家・農家の施主所有の山の木を伐採し、地元の製材所で加工した材を用い、厚貫、差鴨居、足固めによる伝統的な軸組を構成している。
高温多湿な気候特性に配慮し、吸放湿性の高い漆喰壁や無垢板、藁畳床等を採用している他、夏の卓越風に配慮した窓計画や通風経路の確保（高窓、引込戸、室内欄間、床面換気口等）といった工夫がなされている。
- 地域の気候風土に応じた木造建築の要素技術については、土塗壁以外の真壁、開放的な床下（石場建て、足固め）、地場で製作される木製建具を採用している。
外壁については、ガイドラインに示されている土壁以外の真壁構法の一つの方向性を示すものと考えられる。
- 現行の省エネ基準では評価が難しい環境負荷低減に寄与する対策については、3枚引き戸で仕切られた続き間、深い軒庇、多層構成の建具（木製ガラス戸、内障子、格子網戸、防寒シャクリ）、地元産（八代産）の畳表と藁床で構成される本畳、県内からの職人の登用、薪ストーブ等、幅広い対策が講じられている。
全体的に、伝統的な構法で施主所有の山の木を使用し、薪ストーブや薪ボイラーを設置するなど、地域の技術と材料を活かそうとしている取組みである。




中山間地に建ち地域の風景に馴染む配慮がなされた外観



通風に配慮した大開口と開放的な間取り



施主が所有する山から産出した材を使った構造材

□続き間 



家族室と和室が続き間。
3枚引戸で仕切られている。





続き間



深い軒・庇

□深い軒・庇  

軒の出 1,334mm

□多層構成の建具  

木製ガラス戸、内障子、格子網戸の組み合わせ
となっている。





多層構成の建具



欄間

□欄間  

床の間一家族室、和室一寝室、ホールー母室
3か所の室間に欄間が設けられている。

□木製建具  


地場製作の木製建具が使われている。




木製建具



開放的な床下（石場建て）

□開放的な床下（石場建て） 

通気・乾燥が見込める開放的な床下工法
としている。

□床下換気口 



床面に換気口を設け、床下の冷気を取込める
ようになっている。



床下換気口



畳（藁床の本畳）の使用

□畳（藁床の本畳）の使用  

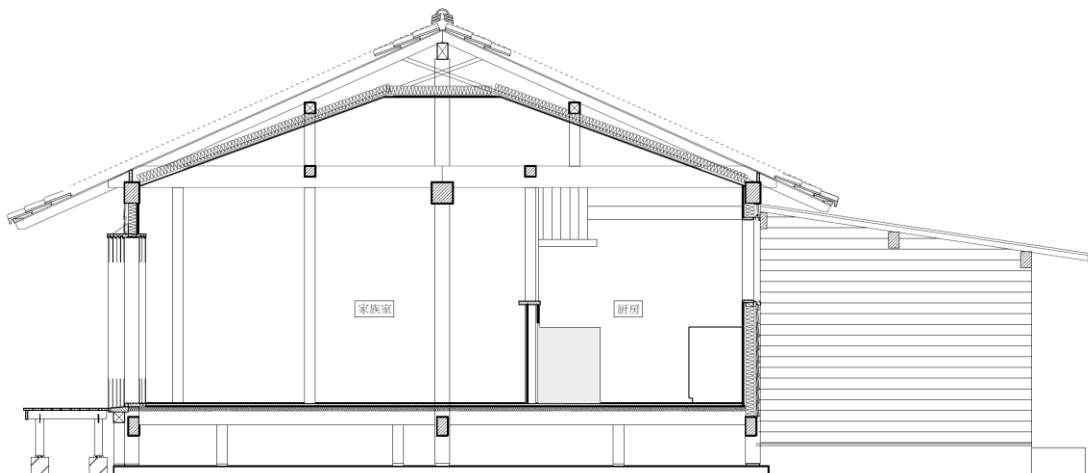
八代産の畳表と藁床で構成される畳が
使用されている。

■エネルギー性能（採択時）

項目	基準値	設計値
評価方法	Web プログラム 気候風土適応住宅版による評価	
地域区分	7 地域（熊本県葦北郡芦北町）	
外皮平均熱貫流率（ U_A 値）	0.87 以下	0.93 W / ($m^2 \cdot K$)
一次エネルギー消費量	79.0 以下	71.9 GJ / (戸・年)
一次エネルギー消費性能（BEI）	1.0 以下	0.88



平面図



矩計図



南西側立面図



北西側立面図

■お施主様の声

林業関係の異業種交流会に参加した際、講師のすまい塾 古川設計室さんの「伝統工法で建てる」話しに感銘を受けました。その後、県の林業課や設計士、林業家、製材所が加わり産直住宅の仕組みがスタートしました。

親が建てた家を建て替えるにあたり、構造材や大黒柱は、自己所有の山で自ら選択し、伐ったものを使っています。自分の家を建てるなら大黒柱のある家を建てようと思っていたことを実現することができました。

生活に合わせて、廊下を設けないコンパクトな間取りにいただきました。回遊できるような空間構成も使いやすく気に入っています。

この土地は標高が高く町よりも気温が約 1~2℃低いのですが、この家では薄着で過ごせるくらい暖かく感じます。また、木の質感により、単なる室温ではない快適さも感じています。

■設計者の声

風がとても通る敷地であるため、今回の事業に応募するにあたり、特に風通しについて配慮しました。そのために欄間を設け、建物の奥行をコンパクトにし、北側の開口部も大きく開けられるような間取りとしています。通風のためには、風の入り口だけでなく、出口をしっかりと設計することが大事だと考えています。

農山村の長閑な風景に馴染み、近隣の白壁と板壁の家と連なるような外観にしました。お施主様が林業を営まれているので、板張りを多くし、漆喰壁とのバランスを考慮しました。家づくりのために、お施主様のご家族とともに山へ行き、伐採風景を見ていただくようにしています。子供たちが伐採するところや木が倒れるところを体験することで、それが思い出になり、大人になって自分の家を建てるときの原体験になれば良いと考えています。